

## 11.子ども食堂と学校をより連携させるには：学校との連携の有無による子ども食堂の比較 恒川幸平

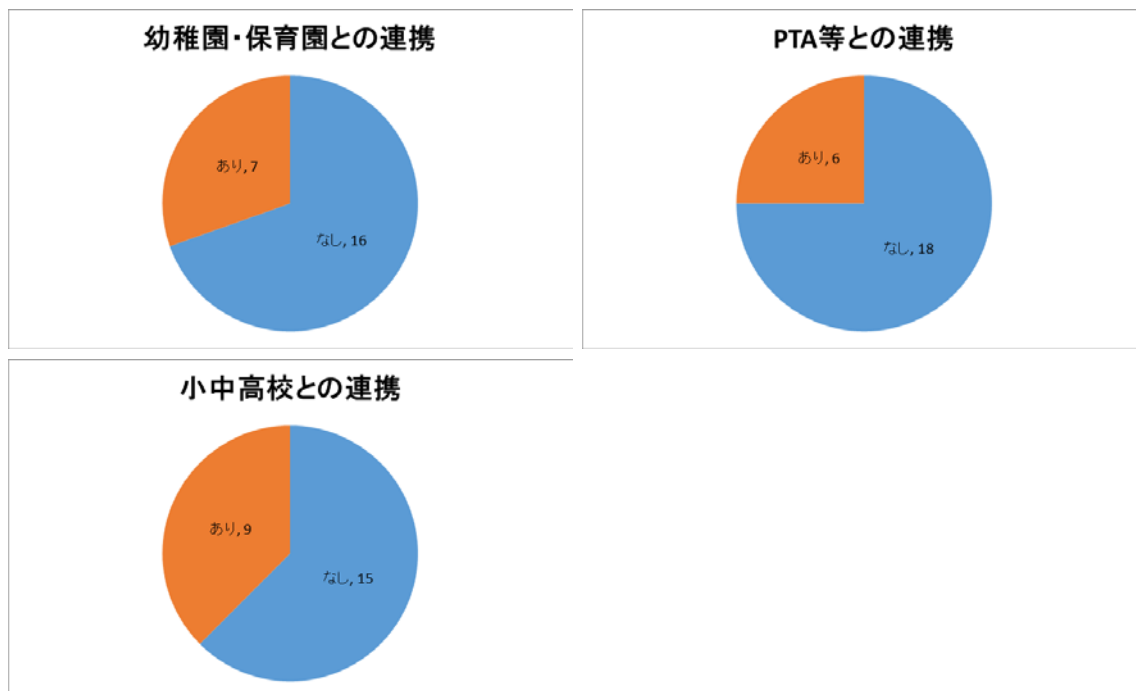
### 1. 子ども食堂と学校の連携

本稿は、愛知県内の子ども食堂の運営者にアンケート調査を行い、学校と連携している子ども食堂とそうでない子ども食堂の違いを①連携することのメリット②課題、③連携するために必要なことに注目して考察したものである。

子ども食堂と学校が連携をとれていると、①直接多くの子どもたちに告知できるため参加者を増やすことができ、いろいろな活動を行うことができる。②開催場所が学校などになると子どもたちが集まりやすく、普段生活している場所であるため安全である。③自分たちの活動がより周知される。ということが考えられる。

### 2. 子ども食堂と学校の連携の有無

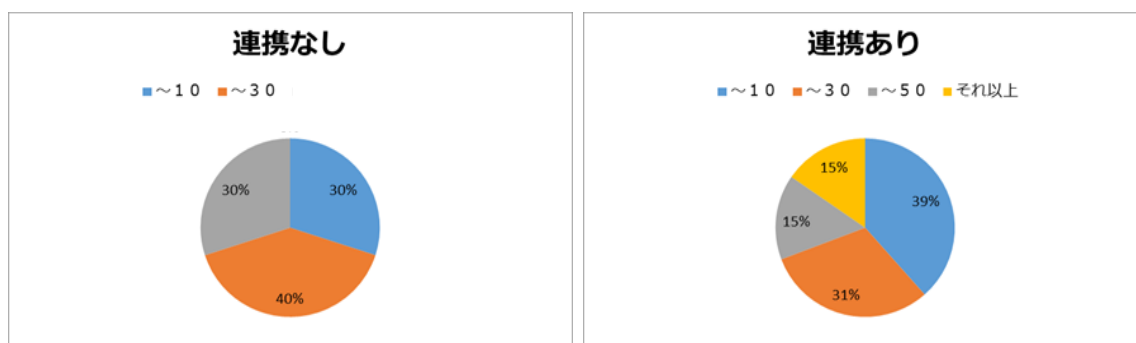
子ども食堂と学校の連携の有無のアンケート結果を①幼稚園・保育園との連携、②小中高校との連携、③PTA等との連携に分けてそれぞれグラフにした。



グラフからそれぞれ約30%の子ども食堂が学校関係と連携をとれていることがわかる。①②③のどことも連携のない子ども食堂は11ヶ所あった。

### 3-1. 参加人数の比較（子ども）

各子ども食堂の子どもの参加人数についてのアンケート結果を学校との連携の有無（どこか一つでも連携が取れていれば「連携あり」とみなす）で分けてグラフにした。



学校との連携のない子ども食堂は0~10人が3ヶ所、11~30人が4ヶ所、31~50人が3ヶ所であった。

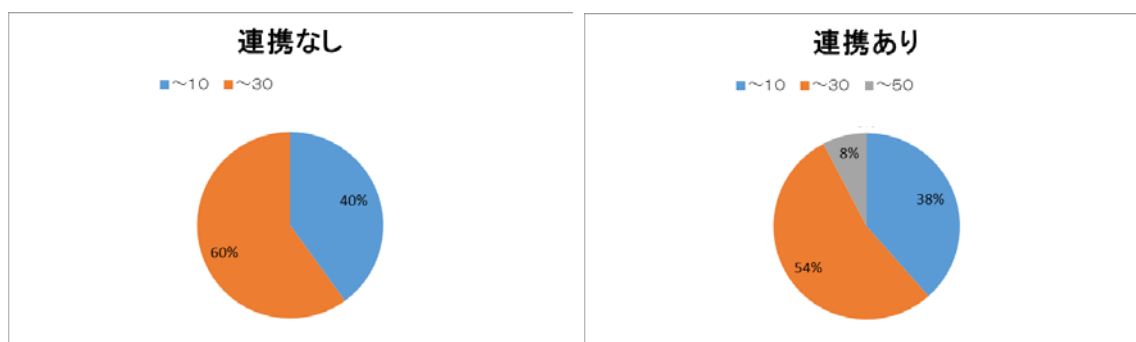
学校と連携をとれている子ども食堂は0~10人が5ヶ所、11~30人が4ヶ所、31~50人が2ヶ所、それ以上が2ヶ所であった。

調査した子ども食堂の最多数は92人であった。

学校と連携のとれている子ども食堂とそうでない子ども食堂では、学校と連携のとれている子ども食堂のほうが子どもの参加者数は多い傾向にある。

### 3-2. 参加人数の比較（大人）

各子ども食堂の大人の参加人数についてのアンケート結果を学校との連携の有無（どこか一つでも連携が取れていれば「連携あり」とみなす）で分けてグラフにした。



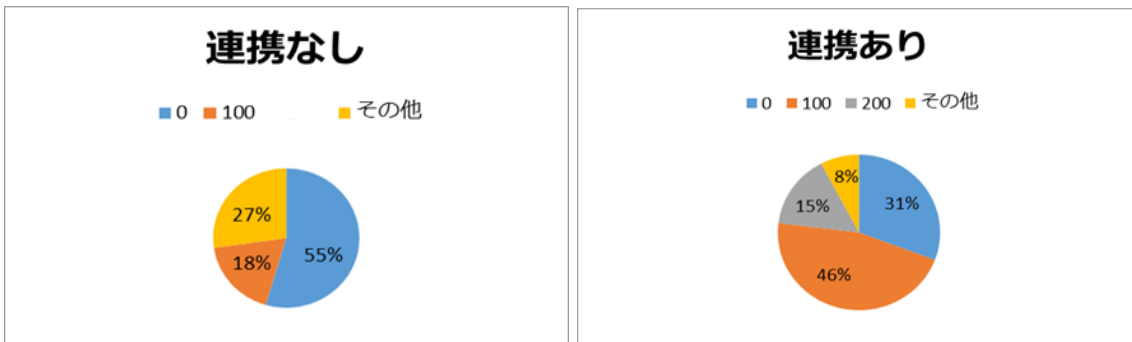
学校との連携のない子ども食堂は0~10人が4ヶ所、11~30人が6ヶ所であった。

学校と連携をとれている子ども食堂は0~10人が5ヶ所、11~30人が7ヶ所、31~50人が1ヶ所であった。

学校と連携のとれている子ども食堂とそうでない子ども食堂では、学校と連携のとれている子ども食堂のほうが子どもの参加人数に比例して大人の参加者数も多い傾向にある。

### 4-1. 参加費の比較（子ども）

各子ども食堂の子どもの参加費についてのアンケート結果を学校との連携の有無（どこか一つでも連携が取れていれば「連携あり」とみなす）で分けてグラフにした。



学校との連携のない子ども食堂は参加費を徴収していない子ども食堂が7ヶ所、100円とする子ども食堂が2ヶ所、手伝いや気持ちなどとして決まっていない子ども食堂が2ヶ所であった。

学校と連携のとれている子ども食堂は参加費を徴収していない子ども食堂が4ヶ所、100円とする子ども食堂が6ヶ所、200円とする子ども食堂が2ヶ所、その他が1ヶ所であった。

学校と連携のとれている子ども食堂とそうでない子ども食堂では、学校との連携のない子ども食堂のほうが参加費は低い傾向にある。

#### 4-2. 参加費の比較 (大人)

各子ども食堂の大人の参加費についてのアンケート結果を学校との連携の有無（どこか一つでも連携が取れていれば「連携あり」とみなす）で分けてグラフにした。



学校との連携のない子ども食堂は大人の参加費を~200円とする子ども食堂が1ヶ所、~300円とする子ども食堂が8ヶ所、その他が2ヶ所であった。

学校と連携のとれている子ども食堂は~200円とする子ども食堂が3ヶ所、~300円とする子ども食堂が6ヶ所、~500円とする子ども食堂は2ヶ所、その他が2ヶ所であった。

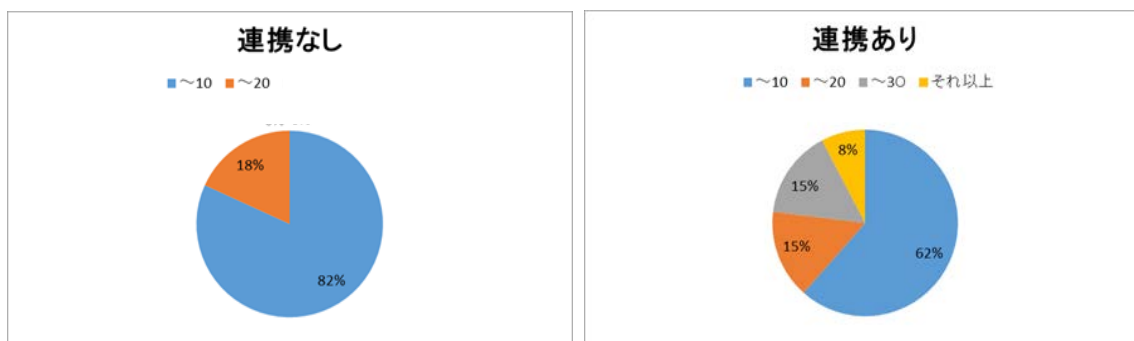
調査した子ども食堂の大人の参加費は100~500円であり、参加費を徴収しない子ども食堂はなかった。

子どもの参加費も大人の参加費も共に、学校との連携のない子ども食堂のほうが参加費は低い傾向にある。

その理由として、3-2、3-3で明らかとなったように学校と連携のとれている子ども食堂のほうが参加人数は多く食材費や運営費などが多くかかることが考えられる。

#### 5. スタッフの人数の比較

各子ども食堂のスタッフの人数についてのアンケート結果を学校との連携の有無（どこか一つでも連携が取れていれば「連携あり」とみなす）で分けてグラフにした。



学校との連携がない子ども食堂は0~10人が9ヶ所、11~20人が2ヶ所であった。

学校と連携をとっている子ども食堂は0~10人が8ヶ所、11~20人が2ヶ所、21~30人が2ヶ所、それ以上が1ヶ所であった。

調査した子ども食堂の最多数は37人であった。

学校と連携の取れている子ども食堂とそうでない子ども食堂では、学校と連携をとれている子ども食堂のほうがスタッフの人数は傾向にある。

学校と連携の取れている子ども食堂は参加者の人数が多いため比例してスタッフの人数も多くなると考えられる。

次に、各子ども食堂でスタッフの人数が足りているかどうかのアンケート結果をグラフにした。



学校との連携がない子ども食堂は「だいたい足りている」が9ヶ所、「開催回による」が2ヶ所であった。

学校と連携をとっている子ども食堂は「だいたい足りている」が6ヶ所、「開催回による」が5ヶ所、「不足している」が2ヶ所であった。

スタッフの人数は学校と連携をとれている子ども食堂のほうがそうでない子ども食堂より多いはずだが人手不足である。

学校と連携をとることによって集まった参加者に対しスタッフの人数が追いついていないということが考えられる。

## 6. まとめ

今回のアンケート調査を通して、子ども食堂と学校が連携することのメリットと課題が

明らかになった。

子ども食堂が学校と連携することのメリットとして参加者・スタッフの人数が集まるといことが挙げられる。

逆に、子ども食堂が学校と連携することによって参加費が高くなることや、スタッフの人手不足に陥るとい課題も見つけた。

結果として、学校と連携をとることだけが良いといわけではなく、各子ども食堂の目指す規模や運営方法に基づいて学校と連携をとるかどうかを見極めることが必要であるとい考える。